

教養医科学

科目責任者 奥田泰久
学年・学期 1学年・1学期

一
学
年

I. 前 文

医師を目指す諸君には、なぜ自分が医師になろうとしたのかという原点を常に意識し、社会に尊敬される良き臨床医、医学者になることを自覚するとともに、医学を学ぶことへの関心を高めてほしい。教養医科学では、そのための導入部として各領域における専門家が講師となるが、本講義において医学生として社会の一員としてのマナーを身につけ、建学の理念である人間性豊かな医師並びに医学者を目指すとともに、グローバルな社会に対応するための国際感覚も養ってほしい。

II. 担当教員

学 長	奥 田 泰 久
特任教授	井 上 晃 男 (那須赤十字病院)
特任教授	千 種 雄 一
特任教授	安 隆 則
特任教授	徳 本 直 彦
特任教授	福 田 富 一 (栃木県知事)
特任教授	二 川 一 男
特任教授	満 屋 裕 明 (国立国際医療研究所)
	滝 田 純 子 (NHO宇都宮病院・栃木県医師会)
	大 谷 昭 宏 (ジャーナリスト)
	高 橋 祥 友 (立川こころのクリニック)
教 授	大 川 宜 昭 (認知・記憶研究室)
教 授	山 口 重 樹 (麻酔科学)
教 授	佐久間 理 吏 (内科学 (心臓・血管))
教 授	杉 本 公 平 (埼玉医療センターリプロダクションセンター)

III. 一般学習目標

1. 本学の歴史的背景を理解し、獨協人としての人間形成に努める。
2. 医療の対象としての人間理解、患者理解を深める。
3. 高度な医療技術と人間性豊かな医師を目指す決意を新たにす。
4. 先端医療の実態に触れ、今後のあり方を考える。

IV. 学修の到達目標

1. 医療における人間関係の重要性を学ぶ。
2. 医師たらしめる動機付けを明確にする。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	4	20	月	6	・ Introduction ・ 日本から駆逐された疾患を追い求めて ～フィリピンの日本住血吸虫症と国際交流～	奥 田 泰 久 千 種 雄 一	6
2		30	木	4	好奇心旺盛な医師としての生きがい：Global health and local health	安 隆 則	6
3	5	7	木	4	社会保障制度の現状と課題及び厚生労働省について	二 川 一 男	6
4		11	月	4	生殖医療倫理と意思決定支援	杉 本 公 平	6
5		14	木	4	記憶を見る・操作する ～認知機能病態の解明を目指して～	大 川 宣 昭	6
6		18	月	6	事件, 事故, 災害。そして理不尽な冤罪…私たちの立ち位置は	大 谷 昭 宏	6
7		21	木	4	医学研究のススメ：疾患との戦いはサイエンスを手にしての戦い	満 屋 裕 明	6
8		25	月	4	医学生が知っておきたい自殺予防の基礎知識	高 橋 祥 友	6
9		28	木	4	医療者の立場から見た応召義務と関連する諸問題	滝 田 純 子	6
10	6	1	月	4	アメリカの医療	山 口 重 樹	6
11		4	木	6	再生医療	佐久間 理 吏	6
12		8	月	4	未定	井 上 晃 男	6
13		11	木	4	命といのちの贈り物	徳 本 直 彦	6
14		15	月	6	信頼され, 尊敬される人となれ ～医療の道を目指す新入生へのメッセージ～	福 田 富 一	6

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

出席状況・レポートにより評価する。なお、レポート課題について、提出期日までに提出されない場合は、当該課題は受理しない（採点を行わない）ので、留意すること。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

特に指定しない。

VIII. 質問への対応方法

講義中や、講義前後で便宜質問を受け付ける。質問方法は担当者の指示に従うこと。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	○
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	○
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

原則として、成績評価のフィードバックは行わないが、態度不良、欠席が多い場合は注意を行った上で別途課題を課す場合がある。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（60分）：講義テーマに関する事項について、図書館やインターネット等を活用して調べておく

事後学習（30分）：講義内容についての振り返りを行い、自身の教養を深める

XII. コアカリ記号・番号

PR-03-01-01 教 養：人の生命に深く関わる医師に相応しい教養を身につける。

PR-04-01-01 臨床倫理：生と死に関わる倫理的問題の概要を理解している。

PR-04-01-03 臨床倫理：診療現場における倫理的問題について、倫理学の考え方に依拠し、分析した上で、自身の考えを述べることができる。

LL-01-01-01 生涯学習の実践：医学知識が常に変わりゆくことを認識し、現時点での最善の医学情報にアクセスできる。

LL-01-01-02 生涯学習の実践：学修・経験したことを省察し、自己の課題を明確にできる。

RE-01-01-01 能動的姿勢：常識を疑う。

RE-01-01-02 能動的姿勢：何事にも知的好奇心を持って取り組むことができる。

RE-01-02-01 探究心：最先端の研究に刺激を受ける。

RE-01-02-02 探究心：ロールモデルとしての研究者の生き方に触れる。